

# 1学年通信

## Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

1学年 第30号

2015.10.15 (木) 発行

このたびは ぬさもとりあへず 手向山 もみぢの錦 神のまにまに 菅家

1学年 堀米 祐一郎



私事ですが、この前の連休に友人の結婚式で京都に行ってきました。山形でも紅葉は始まっていない今ですから京都の山もまだ青々としていましたが、少し季節を先取りしてこの歌を詠みます。菅家とは菅原道真のことです。平安時代前期のすぐれた学者であり政治家であった菅原道真が紅葉の美しさに感動して詠んだのがこの歌です。菅原道真といえば学問の神様、受験生の神頼みの筆頭にあげられるようなお方ですが、実は勉強だけではなく学生の体も守っているんですよ。菅原道真のことを菅公とも呼びます。学生服のメーカー「カンコー」の名前は菅原道真からいただいているんです。

私事その2ですが、本年度山形県教員採用試験に合格しました。来年の四月から晴れて教諭として教壇に立ちます。と書くと、「なんだ、本物の先生じゃなかったのか。どうりでうさんくさい奴だと思った。」などと言う人はいないと思いますが（いませんよね?）、この機会に教員になる方法を説明しようと思います。教員を志望している人も、教員になることは考えていないという人も、進路を考える情報のひとつとして読んでみてください。

教員になるにはどうすればいいのか。簡単です。教育について勉強すればいいんです。簡単すぎて何も分からない?では、詳しく説明していきましょう

第一に、「教員免許」を取得する必要があります。そのためには大学で教育について学ばなければなりません。では、教育についての勉強とはどのようなことをするのか。大きく二つに分けられます。①教科について勉強する ②教育について勉強する この二つです。①の教科についての勉強とは、国語教師なら国語、数学教師なら数学、体育教師なら体育というように、自分が専門として教える教科について深く研究することです。②の教育についての勉強とは教科指導以外の教員の仕事に関わることを勉強することです。例をあげれば心理学や教育の歴史、教育に係る法律などです。大学で①と②を勉強し、四年生で教育実習（母校で行うのが一般的です。君たちのうち、何人が戻ってくるでしょう）に行き卒業論文を書き上げ、無事卒業できたら教員免許がもらえます。これが教員になるための第一段階です。

ただし、どの大学どの学部でも同じ教員免許がもらえるわけではありません。教員免許の種類は小・中・高で分かれており、中・高についてはさらに教科ごとに細分化しています。どの免許が取得できるのかは大学学部によって異なるのです。極端なことを言えば、文学部で理科の免許は取れなさそうですね。大学学部選びはそのようなことにも注意してください。特に小学校の免許は取れる大学が少ないので事前の下調べが重要です。小学校の先生はやるのが幅広いですからね。

第二に、「教員採用試験」に合格しなければなりません。教員免許はあくまでも「教員をする資格」であって、実際に教員になるのは各都道府県が実施する「教員採用試験」に合格してからです。教員採用試験に合格した先生が「教諭」、それ以外の先生を「講師」といいます。講師は教諭の手が足りないところを補う形で勤務します。スポーツでたとえるならば教諭はレギュラーメンバー、講師は控え選手といったところでしょうか。

教員免許に勤務地の制限はないので、日本中どこでも教員になることはできます。実際私は大阪府と兵庫県の高校に勤務した経験があります。同様に教員採用試験の受験地にも制限はありません。好きなところを受験することができますし、同年内で複数の県の教員採用試験を受けることもできます。ただし、教員採用試験は各都道府県独自の試験ですからその試験内容も独自のものになっています。当然対策も個々にやっていかなくてはなりませんよ。山形県を例にとれば、一次試験は筆記試験と集団討論、二次試験が作文、面接と模擬授業という構成になっています。一次の筆記試験は教員免許で説明した①と②の内容が出題されます。近年は大学卒業後すぐに合格ということはほとんどありません。ほとんどの先生は講師として多くの現場を経験したのちに教員採用試験に合格しています。本気で教員を目指すのならば、かなりの長期計画を覚悟する必要があります。

私は大学で京都に行ってから卒業後も関西で高校に勤務していました。その間山形県の教員採用試験を受け続けていましたが、今年ようやく合格することができました。関西にいた間に山形県の教育現場では後輩がどんどん活躍しています。まるで浦島太郎になった気分（興譲館の先生の中にも年下の方がずいぶんいらっしゃいます）。ずいぶんあちこちを渡り歩きましたが、ようやく落ち着くことができそうです。経験は貴重な財産であるとはよく言われることですが、これまでの経験も事あるごとに役に立っており、今の経験もいずれ役に立つことでしょう。

私は高校生の頃、古文を勉強する意味が分かりませんでした。助動詞の活用表なんて覚えて何の役に立つのかと思っていました。そんな私が何年も古文を研究し、活用表を覚えていなければ仕事にならない職業に就いているなどあの頃は考えもしませんでした。皆さんが今やっていることで、生涯を通して必要になるのは何なのかということは誰にもわかりません。将来やりたいことを諦めなくてもいいように、今は食欲にいろいろなものを手に入れましょう。人事を尽くして天命を待つ言葉通り、菅公だって助けてくれるのは全力を尽くした人だけです。